

[速報版]

【日本経済調査資料シリーズ6】

昭和前期 商工資産信用録 第Ⅱ期

■体裁 B5判 上製・総約5,000頁

■底本 「商工資産信用録」(商業興信所刊)

| 配本 | 巻数 | 定価 | ISBN | 刊行 |
|------------|-----|--------------|-------------------|---------------|
| 第1回(昭和6年) | 全4巻 | 本体120,000円+税 | 978-4-908823-33-6 | 2018年5月刊行(既刊) |
| 第2回(昭和11年) | 全4巻 | 本体120,000円+税 | 978-4-908823-46-6 | 2019年2月刊行(既刊) |
| 第3回(昭和16年) | 全4巻 | 本体120,000円+税 | 978-4-908823-53-4 | 2019年11月刊行 |

<おすすめ先> 日本経済史・経営史・産業史・地域史・日本近現代史 / 大学図書館・公共図書館など

好評既刊 【日本経済調査資料シリーズ1~5】

【日本経済調査資料シリーズ1】世界遺産指定の「富岡製糸場」はじめ各工場・鉱山の変遷を明らかにする基本データ集。

全国工場鉱山名簿 全3巻 在庫僅少

解説: 阿部武司 (国士館大学教授)

●定価 (84,000円+税) ●B5判・総約1800頁 底本:『全国主要工場鉱山名簿』ほか。 ISBN978-4-9905091-0-1 C3333

【日本経済調査資料シリーズ2】米国司法省戦時経済局が押収した在米日本商社資料を集めた貴重な資料。

米国司法省戦時経済局対日調査資料集 全5巻 在庫僅少

編集・解説: 三輪宗弘 (九州大学教授) ●定価 (160,000円+税) ●B5判・総約2,500頁(改訂版) ISBN978-4-908823-17-6

【日本経済調査資料シリーズ3】明治・大正期の西日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

明治大正期 商工資産信用録 第Ⅰ期 第1回配本 全6巻 ISBN978-4-905388-12-8 C3333

●定価 (130,000円+税) ●B5判・総約3,800頁 底本:『商工資産信用録』(商業興信所刊 明治42年~大正元年)

明治大正期 商工資産信用録 第Ⅰ期 第2回配本 全9巻 ISBN978-4-905388-19-7 C3333

●定価 (195,000円+税) ●B5判・総約5,700頁 底本:『商工資産信用録』(商業興信所刊 大正4年~大正14年)

【日本経済調査資料シリーズ4】明治・大正期の東日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

明治大正期 商工信用録 第Ⅰ期 B5判上製 底本:『商工信用録』(東京興信所刊 明治32年~大正14年)

●第1回配本(全4巻) 明治32~44年 定価(100,000円+税) 総約2,600頁 ISBN978-4-905388-29-6 C3333

●第2回配本(全4巻) 大正4年 定価(120,000円+税) 総約2,100頁 ISBN978-4-905388-75-3 C3333

●第3回配本(全4巻) 大正7年 定価(120,000円+税) 総約2,200頁 ISBN978-4-905388-89-0 C3333

●第4回配本(全4巻) 大正9年 定価(120,000円+税) 総約2,100頁 ISBN978-4-908823-00-8 C3333

●第5回配本(全4巻) 大正14年 定価(120,000円+税) 総約2,000頁 ISBN978-4-908823-10-7 C3333

明治大正期の各府県企業の営業状態や資金信用情報が詳細にわかる。中小商工者レベルまで網羅する。外国人も収載。

【日本経済調査資料シリーズ5】「長尾文庫」からの企業資料セレクション。

明解企業史研究資料集 第1回配本 -旧外地企業編 全4巻

編集・解説: 佐々木 淳 (龍谷大学教授) ●定価 (150,000円+税) ●B5判・総約3,500頁 ISBN978-4-905388-48-7 C3333

旧外地の台湾、朝鮮、満洲国、中国関内・南洋諸島の12社をセレクション。社史、事業概要・企業活動などを収めた初の資料集。

明解企業史研究資料集 第2回配本 総合商社鈴木商店関係会社編 全3巻

編集・解説: 佐々木 淳 (龍谷大学教授) ●定価 (130,000円+税) ●B5判・総約2,700頁 ISBN978-4-905388-94-4 C3333

鈴木商店関連資料のほか、関係会社から稀少な社史(豊年製油、天満織物)、樟腦事業関連資料などを復刻。商社史だけではなく産業史・地域史研究にも役立つ資料。

明解企業史研究資料集 第3回配本 繊維産業編 全3巻

編集・解説: 佐々木 淳 (龍谷大学教授) ●定価 (130,000円+税) ●B5判・総約2,500頁 ISBN978-4-908823-23-7 C3333

戦前期在来産業の代表・織物業の地域別製造業者・問屋などを網羅する稀少資料などを復刻。繊維産業史研究の第一級資料!!

クロスカルチャー出版

学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町2-7-6

TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708

e-mail: crocul99@sound.ocn.ne.jp

取扱書店

推薦します

富豪・企業家の史的研究に不可欠な重要資料

国士舘大学政経学部教授 阿部武司

貸出先の信用調査は銀行をはじめとする金融機関にとって最も重要な業務であるが、個々の銀行が独自にそれを実施する際のコストを社会的に節約するために興信所が設けられた。まず 1892 年に大阪で外山脩造の主導によって商業興信所が、次いで 1896 年に東京で渋沢栄一を会長として東京興信所が設立された。クロスカルチャー出版が、明治大正期、さらに昭和戦前期と、刊行時期を追って復刻してきた『商工信用録』（東京興信所刊行。主に東日本を対象）および『商工資産信用録』（商業興信所刊行。主に西日本を対象）は、個別の企業家に関する信頼に堪える「正味身代」（資産総額）や信用の程度を詳細に示した文献であり、今日の研究者にとっては、刊行時における企業家たちの信用力を知ることができる貴重な資料である。近年、全国各地で展開してきた富豪の企業者活動に関する歴史的研究が精力的に推進されているが、各富豪が全国的に見てどの程度の地位にあったのか、あるいは、どの程度しっかりとした存続の基盤を持っていたのか、という基本的事実への論及は意外に少ない。また、ある企業家が好況期にどの程度まで成長したのか、同じ人物が長期不況期にはどこまで持ちこたえられたのかも客観的に知りたいところである。さらに、多数の企業家を対象にして、それぞれの人物に関する資産額の推移を追うことによって、経済的格差が拡大していったのか否かといった問題も興味深い。『商工信用録』と『商工資産信用録』は以上のような論点を考察する上で、まことに有益と思われる。山崎広明氏のようにこれらの資料を駆使した研究者がいない訳ではないが、興信所が会員に限って配布していたという事情によって閲覧が必ずしも容易でなかったために、使用されることが多くなかった。しかしながら、復刻されたそれらが主要な公共図書館や大学の図書館・研究室などに備えられることによって、その活用の条件が今や整いつつある。



Crossculture
Publishing
Company Ltd.

商業分野の歴史研究にとっての必読文献 —グローバル・ヒストリーの視点から—

神奈川大学経済学部教授 谷沢弘毅

近年の歴史学会では、グローバル・ヒストリーがブームとなっているが、その傾向を経済史分野に限ってみると、アンガス・マディソンによる一連の国際比較研究に代表される、超長期GDPの推計が脚光を浴びている。たしかに経済の発展を論じる際に、言葉をいくら重ねたとしても経済データを使った分析のほうが説得力は勝っていよう。ただしこのような歴史統計にとってもっとも推計の困難な部分は、第3次産業（特に商業）であることに異論はなからう。このため各研究とも多様な推計方法を駆使してきたが、現状ではそれがはたして成功しているか否か疑問に思うことも少なくない（谷沢「歴史統計の推計方法に関する一考察」『商経論叢』第53巻第3号、2018年を参照）。

その理由はいくつか考えられるが、一つには資料の不足・統計の未整備等によって第3次産業の実態解明が進んでいないことがあげられる。そもそもこの分野は謎が多い、いわば未踏の領域なのである。この場合の統計とは、最終的にはSNA（国民経済計算）統計のスタイルと整合的な業種別データ等が考えられるが、そこまでハードルを上げてしまうと、なかなか超長期の歴史分析はできないかもしれない。それゆえもう少しハードルを下げるなら、各商品の流通に関わる事業者の実態を個別に反映したデータや情報が、商業分野における必要文献に該当するだろう。そしてこの種の文献を駆使した商業研究は、一見すると上記のSNA統計とは直接結びつかないように思えるかもしれないが、個別情報の積み重ねによってSNA統計の基本的特徴を把握することができる点では無関係とはいえない。

筆者は最近、書評の対象として扱った研究成果に江戸期商業の多角的な分析があるが、そこでは個別商人・店舗のデータベースを作成していた。このような作業をおこなうにあたって、幕府による商人・店舗情報の収集・整備は遅れていたが、代わりに民間部門等で発行された各種商人名簿が比較的豊富に残されていたため、それらから作成された田中康雄編『江戸商家・商人名データ総覧』全7巻（データ総数7.4万件）を利用することで、上記のデータベースを作成していた。「歴史研究とはそんなもの」と割り切ることもできるが、できれば情報収集に余計な苦労はしたくないのが本音である（詳しくは、谷沢「書評：山室恭子『大江戸商い白書』」『社会経済史学』第82巻第4号、2017年を参照）。

このような苦労を重ねた近世のことを思えば、近代についてはすでにクロスカルチャー出版が『商工信用録』（主に東日本の情報）、『商工資産信用録』（主に西日本の情報）といった、定評のある信用調査資料を復刻するなど、研究者にとって恵まれた環境が整えられつつある。そしてこの復刻資料シリーズも、ここにきてようやく“真打ち”が登場した。すなわち昭和戦前期の平時に入ってきたことで、蓄積された分厚い先行研究とすり合わせる事が可能となり、分析の幅が大きく広げられることになる。これらの復刻資料を縦横に活用することで、SNA統計の個別推計といった究極の目的に近づいてほしいものである（本資料は当然、経済史研究以外にも活用できるが、筆者の研究分野に即して私見を述べたものである。この点を念のため付言しておきたい）。